

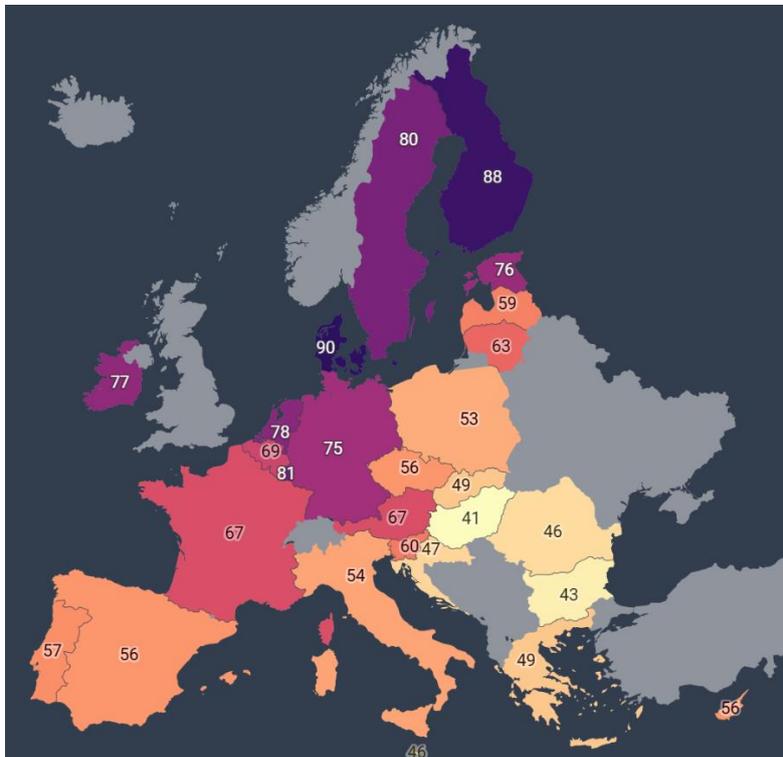
ブダペスト通信

盛田 常夫



2025年 NO.7 (2月15日)

欧州の腐敗度ランキングーハンガリーが3年続けて最下位



TI (Transparency International) の腐敗度指数。数値が低くなるほど、腐敗度は高い。

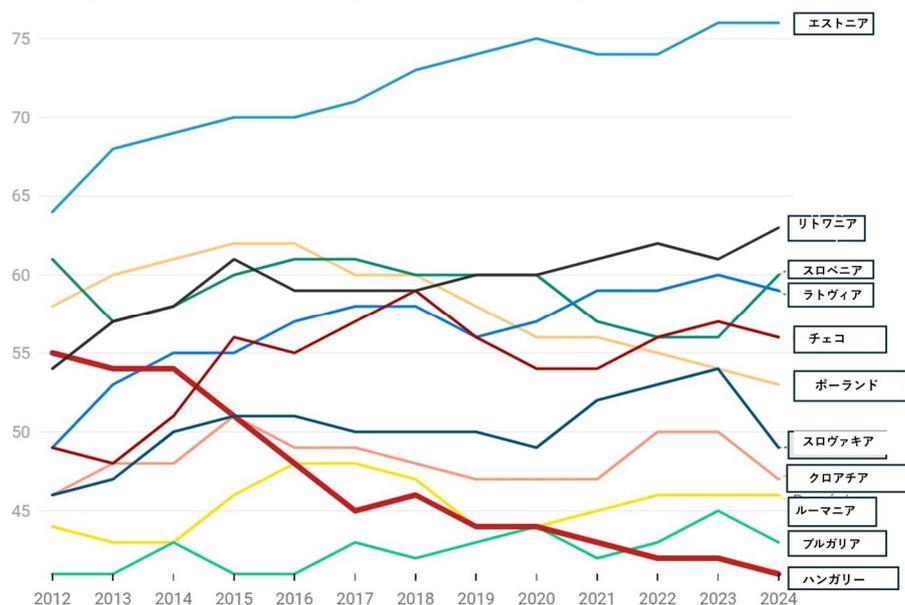
Transparency International が毎年発表する腐敗度ランキングで、ハンガリーが3年続けて最下位に位置付けられた。

ハンガリーの腐敗度は 2012-14 年までは旧社会主義国の中で中位の位置を占めていた。オルバン政権は原発拡張工事で、プーチン大統領と不可解な協定を結んだ頃から、ロシアや中国との取引を通して裏金を流通させて個人資産と政権維持のための資金を蓄え始めた。さらに、オルバン首相の女婿の起業を助けるために EU 補助金を詐取して、OLAF (European Anti-Fraud Office) の調査を受け、不正取得が認定された。当時、ハンガリーの公安機関 (秘密警察) が OLAF 調査員の行動を監視していたことが報道されている。

ロシアや中国の富裕層を対象にした滞在許可付き国債 (Golden Visa) の発行を政府が主導し、オフショア企業を使って莫大な資金を入手し、他方でロシアと中国との怪しげな取引関係の構築を行った。

また、特定事業者への公共事業の発注を繰り返し、オルバン首相の同郷でガス配管事業者のメーサーロシュ・リューリンツをハンガリートップの億万長者に押し上げ、国家発注を受注する政商グループ (NER) を構築し、プライベートジェットや高価ヨットを購入させるなど、やりたい放題を続けてきた。

もっとも、オルバン首相がロシアから得た裏金は、ハンガリー最大の億万長者メーサーロシュの個人資産をはるかに超える。オルバン首相がハンガリー最大の億万長者だが、首相報酬だけで生活しているピューリタンだという印象操作を行っている。



これら Fidesz 政権下における巨額の私財蓄積の詳細は、拙著『体制転換の政治経済社会学』（日本評論社、2020年）第4章を参照されたい。